

「向きを変えるときを決断 信用と信頼

1. 進む道は神様と!! 2. 感謝の土台石

ヨシュア3:1-4:7

はじめに

向きをかえよ!!向きをかえる時の決断 信用と信頼

1 進む道は神様!!

世界各地で災害が起こっています。

人は「どうして神様がいるのにこんなことがおこるのか?」と思うかもしれません。

しかし、逆に神様は、「なぜあなた方は任されたものをしっかりみなのか?」と問うているのかもしれない。神様がこの地球を任せたのは私たち人間だったのです。その素晴らしい地球を壊してしまっただけです。したがって、鉄が酸化鉄に戻るように、地球は戻そうとしているのです。

目線の違

人間の目線から見ると、「築いたものが壊される。または害虫が発生して脅かされる。」とおもうかもしれません。しかし、人間の目から見ているので善なのです。逆に地球から見ると、「ズレたものをなんとか戻そうとしているのではないかと思うのです。目線がとも大切です。「輝く目を仰ぐ時、月星眺る時、誠の御神を思う」と賛美にあるように、私たち神様が創造されたこの美しい世界を、いつまでも続くように願ひ、願うだけではなく保つ行動を行い、いつも保っていないといけないのです。

2つの種類の人

私たちは2つの種類の人を見るのです。文句を言っている人と感謝をしている人です。多くの地域で活躍している人を見ると人望があつてみんながその人を慕って感謝しているのです。なぜ、その人に感謝しているかというとその人が立場や地位があつても年下の人やその人に支えている人に対して目を見て話をしているから感謝しているからです。私たちが神様の前に正しい目線を持っていればそのようになれるのです。

見なくて良いものに目を向けて、やらなくて良いことに時間を費やし、本来やるべきことをやらない。という勿体無い状態においてはいけません。ですから今私たちは本当の姿に戻ります。確かに地球は人間にとって都合の悪い働きをしています。なぜかという私たちが地球を壊したからです。地球は勿体無い状況に陥っているの戻らうとしているのです。そのような中で人間にとって「なぜ、このようなことが起こるのか?」と悲劇が起こります。しかし、「なぜ?」と思うならば、「私たちが何かをしななければならない」と考えることこそが私たちがすべきことなのです。私たちはできることがあるのです。

ヨシュア 3:1~4:7

目の前にある大きな障害。普段ヨルダン川は川幅が狭いのですが、この刈り入れの期間中で水嵩が多かったのです。そのような中で約3万人の人々が移動してヨルダン川を渡らなければならない状況で、神様はそのヨルダン川に「足を踏み入れよ。」と言われました。神様は人間の常識と違うことを言われるのです。神様は、「契約の箱を2,000キュビト(約 880メートル)先に行かせよ。」と言われました。モーセからヨシュアに代わり新しい神様の契約の地に入る時に方針を変えて、以前、契約の箱が民の中にあり周りを見る私たちの目線から、前をいく神の箱を見る目線に変えるように言われたのです。契約の箱を目の前に置いてヨルダン側を進んだ時に川の水は堰き止められ無事に渡り終えることができました。その記念としてモニュメント、石をかざり置くに神様は言われました。

神様は今まで歩んでいた道から本来の道に進むために、私たちにもう一度大切なことを忘れないための基準を与えてくれたのです。

1 進む道は神様と!!

・信用は過去の実績や評価に基づいて下される客観的評価
・信頼はその信用に基づいて未来の行動を期待する主観的、精神的なものの信頼を得るべき 1 番の人は神様です。ヨシュアはモーセと40年一緒にいてどう思っていたでしょうか。嬉しかったことも辛かったこともあったと思いますがヨシュアはモーセの後を受け継ぎました。ヨシュアはモーセや神様から信頼を得ていたと思います。神様の信頼を得る人はどういう人でしょうか? それは、「素直な人」ではないかと思うのです。ヨシュアは素直でモーセのことが好きで、その感情を素直に表していたのだと思うのです。

神様はヨルダン川を渡りながら「これから私をみるよ。」と、神様の存在を民に見せたのです。「いちいち反発しないで良いので素直になれ。それで良いから。それから、このことを忘れるな」と素直になることを言われているのです。神様がやれと言われたことを素直にやるか、やらないか。私たちは色々な理由をつけてやらない決断をするのです。何故かというそれは神様がこれから進むべき道を私たちに見せたいからです。どこに進むべきなのか

どこに私たちが歩いていくのか。それは私たちが未だ歩んだことのない道だと言われています。だからこそ私たちは覚えておかなければなりません。いつも私たちが置く目線は私たちの只中ではなく、1 キロ先を進んでいく神様の箱なのです。

2 感謝の土台石

私たちは感謝の土台石を私たちは持っていないといけません。民がヨルダン川を渡る時、契約の箱は民が渡り切るまで川の真ん中にありました。目の前に横たわる大きな問題のヨルダン川は刈り入れの時期で水嵩が多く普通だったら渡ることのできない大きな問題の中、私たちは新しい道を進む時に神様を見ていないといけません。そして、見ているだけではなく神様をその場に置いておかなければならないのです。多くの人は、神様を見ると「ここにいてください。私の方法でやりますから。」といってしまうのです。あなたと神様と一緒にではないのです。ですから、私たちはいつも「何でうまく行かないのか?」と悩むのです。私たちはその問題を解決する時に神様の働きをきちんと置いておかなければならないと思います。ですから、信頼を絶えず保つために不平の目線を捨てなければなりません。

どこに進むのかを知る必要性がある

私たちはいつもどこに進むかを忘れてしまいます。「3:3 民に命じて言った。「あなたがたは、あなたがたの神、【主】の契約の箱を見、レビ人の祭司たちが、それをかついでいるのを見たなら、あなたがたのいる所を発つて、そのうしろを進まなければならない。3:4 あなたがたは箱との間には、約二千キュビトの距離をおかなければならない。それに近づいてはならない。それは、あなたがたの行くべき道を知るためである。あなたがたは、今までこの道を通ったことがないからだ。」(ヨシュア 3:3-4)

私たちは多くの場合結果だけを求めます。しかし、どこへ行くのかを知りません。多くの人は「結果を出さなければいけない」と思っています。しかし、結果は自分が思うように出せないのです。原因があつて結果に至るためのプロセスがあるのです。神様が私たちに任せたのはここなのです。結果を出すために大切なのは、私たちが目線を間違えないことなのです。そしてそれを継続することです。このヨルダン川(世俗)を渡るために大切なことは、神様を真ん中に置いて目線を間違えずに一步一步進めることなのです。

あなたがヨルダン側を渡って新しい地へ神様の元へ帰ろうとした目的は「変遷と変貌を経て、あなたを創った神様があなたを本当の姿にしたい」だけなのです。

私たちが天国に帰る時、神様はあなたを一番素晴らしい美しい姿にすると言っているのです。ですが、私たちはこの地上の中でキリストの身丈にまで成長できるように、その姿に変えられて行くのだと書いてあります。神様が私たちにやりたいことは、私たちの心の内側を素直にあなたの姿に戻したいのです。ですから、あなたはどこへ進むのかを知っていなければいけません。

あなたは自分が本当はどのような人か知っていなければいけません。自分のことを「ダメな人だ」と言っていることが、神様を悲しませている最大のポイントです。神様はあなたをダメになんか作っていません。あなたを創った時に神様は「エクセレント」といわれたのです。

さいごに

私は困難の前にすると「自分はダメだ。うまく行かない」と思ってしまう。それは神様と目線が違うからだということがわかりました。私が神様を見上げて見ると神様と話ができるようになります。目的を知ることができるようになるのです。創ってくれた人が素晴らしい作られた私も素晴らしいのです。ただそれをダメにしたのが、これまでの人生です。今、私は向きを変えて出発し目の前にある変わるためのヨルダン川(世俗)を渡りたいと思います。

アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神そしてあなたにまでその系図を引き継いでくれたのです。自分だけの責任で走るのをやめたくはありません。私の後にもその系図を引き継ぐべき人がいるからです。

そのバトンとは、「本当の自分になることを諦めない」ということです。今日私は、神様を前に置いて目線を間違えずに一步一步歩を進めていきます。

(要約者: 澤口建樹)

(2024年9月29日)